

【模範解答】

(A)

国語総合

受験番号	
氏名	

問1

ア	秀
イ	依然
ウ	必需
エ	人為
オ	膨大

問2

a	はぐく
b	たき
c	すいとう
d	しゅつど
e	ばつさい

問3

A	2
B	5
C	4
D	3

問4

漆はウルシの樹木を加工したものを表し、ウルシは樹木そのものを表す。

問5

4

問6

縄文時代の住宅の規模が小さかつたため

問7

炊事や暖房などの生活で用いられる

問8

で	年
丸	輪
太	に
を	沿
剗	つ
り	て
ぬ	加
い	工
た	し
。	、
	火
	で
	焦
	が
	しな
	が
	ら
	石
	器

ほか

例9

加工の面では精度の高い材の組み合わせ技術がなくとも造れ、実用の面では水漏れの心配がなく継ぎ目もないため強度が高い。

例10

成	、	た	採	建	も	集	め	み	縄
す	自	が	集	材	利	し	の	を	文
る	然	、	民	と	用	て	落	栄	時
こ	の	集	で	し	さ	い	葉	養	代
と	木	落	農	て	れ	た	、	源	の
で	々	で	耕	も	、	。	炊	と	人
森	を	は	を	使	木	漆	事	び	び
林	一	豆	行	わ	材	塗	や	と	と
に	方	類	わ	れ	は	り	暖	い	は
干	的	や	な	た	生	の	房	、	、
涉	に	ク	か	。	活	装	の	た	森
し	使	リ	つ	従	用	身	た	け	林
、	う	、	た	来	具	具	め	で	の
共	の	ウ	と	、	の	は	薪	な	も
生	で	ル	考	繩	材	威	と	く	た
し	は	シ	え	文	料	信	し	ら	ら
て	な	も	ら	人	や	財	て	堆	す
い	く	栽	れ	は	住	と	も	肥	食
た	、	培	て	狩	居	し	も	の	の
。	育	し	い	獵	用	て	採	た	恵

計

問10

問9

問8

問7

問6

問5

問4

問3

問2

問1

2023年度一般入試 A日程

— 傾向と対策 —

国語総合

出題のねらい

大学生として必要な読解力と文章力、すなわち、論理的文章を読んで内容や論の組み立てを理解できるか、また、それについての自分の考えを表現する力があるかを問うことを目的として出題しています。ある程度の長さの文章を読んで、文章全体の構成や主旨を正しく理解し、設定された問題に応じて自分の意見をまとめることを要求します。年度によって文学史や文法の知識に関して出題することもあります。

出題形式・内容（分野）について

形式はこの数年変わっておらず、3000～3500字程度の文章とそれについての10前後の小設問で構成された大設問が1題というかたちで出題しています。出題範囲は現代文のみで論説文が多く、とくに文化論や社会学・心理学に関連した文章を多く取り上げています。2023年度のA日程では海野聰氏の『森と木と建築の日本史』から出題しました。著者は建築史を専門とし、とくに古代建築に関わる研究や活動をなさっています。本書は森林と人とのかかわりを遺跡や遺物の状況から読み解くことをテーマとしており、木材の使用や加工を論じた部分で問題を作成しました。基本的な漢字の読み、書き、語の補填の問題から内容を問う問題まで、10問を設定しました。まずは正確に文章を読みとっているかを把握することをねらいとしています。漢字に関しては大学生として様々な文献を読みこなしていかなければならないと考え、高校までの学習範囲に限らず、一般的なものをも含めて出題しています。また、論理の展開を踏まえてきちんと内容を押さえていることを確認するための設問を多くしてあります。問10はこの文章の中心的なテーマである「縄文時代は森林の恩恵をどのように生かしていたか」について、150字以上200字以内でまとめるという問題です。200字でまとめることは試験時間の中では難しいと感じられるかもしれません、最初に問題に目を通したうえでポイントを拾っておき、解答に取りかかれば無理ではないはずです。採点はすべて手作業で行っています。

採点後の感想・効果的な学習方法

「出題のねらい」にも記載したとおり、大学生として要求される基本的な読解と表現の力を問う出題ですので、普段からいろいろな文章を読み、考え、書く習慣をつけておくことが大切です。同時に設問の要求することを正確に読みとり、それに応えていくことも必要です。たとえば「抜き出し」なのか、自分の言葉で「まとめ」なのか、何字で書くことを要求されているのか、といった「きかれたことにきちんと答える」という姿勢がもっとも大切です。問8では「三十字以内でまとめ」ることを、問10では「従来考えられていた縄文時代のイメージとの違いに触れながら」まとめることを求めています。そのような要求にきちんと答えてください。そして繰り返し出てくる表現はキーワードとしてしっかり押さえましょう。また、キーワードや字数の指定は「抜き出し」たり「まとめ」たりするための大きなヒントになります。